

社会科シラバス 中学地理

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 地理	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間 × 2 年	第 1・第 2 学年	・社会科 中学生の地理(帝国書院) ・中学校社会科地図(帝国書院) ・スタディサプリ動画講義 【新版】中学 社会 地理(共通版) 単元欄の[]に講義番号を記載
学習の到達目標	(1) 探究心を持ち、知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者に伝え、より良い人間関係を築くことの出来る表現力を身につける。(自立自存・寛容と共生) (2) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた地理的知識・情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。(Science) (3) 現代社会において大きな課題となっている環境問題や災害に対し、自然科学と社会科学の両面から幅広い視野を持って問題意識を深め、問題解決のために行動を起こせる力を養う。(Science) (4) 私たちとは異なる価値観に対する理解を深め、それらを尊重しながら、現在世界でおきている様々な問題を解決するために多種多様な人々と協調できる人間になる。(Global) (5) SDGs の「誰ひとり残さない」という精神を念頭に、世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養う。(Global) (6) 様々な学習活動を通じて得られた社会科学と自然科学の基礎的な知識を有機的に結びつけ、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。(Liberal Arts) (7) 様々な民族や宗教・文化を背景に持つ相手の立場に立って考える姿勢を大切にしてモラルを理解し、よりよい人間関係を築くための土台を身につける。(Liberal Arts)		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

中学1年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
4月	第1部 世界のさまざまな地域 第1章 世界の姿 1 私たちの住む地球を眺めて[1]←スタサブ講義番号 2 いろいろな国の国名と位置[1] 3 緯度と経度[1] 4 地球儀と世界地図の違い[1]	＜第1部 第1章＞ 世界の地形、国土の広がり、時差を理解する。 世界の広がり記載する地図や地球儀、それぞれの長所と短所を説明する。	教科書 帝国書院『社会科 中学生の地理』 帝国書院『中学校社会科地図』 ○地図帳を使って世界を見渡すことに親しみ、大陸と海洋、国境の意味を理解していくことで、世界へ視点を広げる。 ○生徒がよく知っている国を地図上で把握し、さらに世界の広がりを実感する。 ○緯度・経度を使って、気候の違いや時差を理解する。
5月	第3部 第2章 日本のさまざまな地域[10] 第1章 日本の姿 第2章 世界と比べた日本の地域的特色 1 自然環境の特色[11]	＜第3部 第2章＞ 世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題について理解する。	○日本列島の広がり地形や気候の特徴を理解する。 ○日本の自然と災害の関係を理解し、日常生活を見直す。 ○領土問題を知ること、国と国との歴史や関係性を知る。
6月	第3章 日本の諸地域 第1節 九州地方[12] 1 九州地方の自然環境 2 自然とともにある九州の人々の生活 3 温暖な気候を生かした農業 4 都市や工業の発展と自然環境 5 南西諸島の自然環境と生活や産業	＜第3章 第1節＞ 九州地方について、自然環境が人々の生活や産業にどのような影響を与えているかを理解する。	○温暖な地域、火山との関わりから九州を掘り下げる。 ○北九州工業地帯の衰退の理由と新しい環境改善の動きにつなげたことを理解する。

9月	第5節 関東地方[16] 1 関東地方の自然環境 2 多くの人々が集まる首都、東京 3 拡大する東京大都市圏 4 人口の集中がもたらした産業 5 臨海部から内陸部へ移りゆく工場 6 大都市周辺の農業と山間部過疎問題	<第5節> 日本の中心の関東地方について、都市の役割を理解する。 多摩ニュータウン開発による地域の変化を学ぶ。今後の多摩学につながる最初の学びという視点から、身近な地域に関心をもってもらおう。	○関東地方の中では、都心と郊外の地域性の違いが顕著であることを知る。 ○郊外の身近な多摩地域がニュータウン地域として開発され、今後どのような課題があるかを説明できる。
10月	第2節 中国・四国地方[13] 1 中国・四国地方の自然環境 2 交通量の整備と人々の生活の変化 3 海外と結びついた瀬戸内の工業 4 全国展開を進める農業 5 観光客を呼び寄せる取り組み	<第2節> 瀬戸内を中心とした地域と交通網の発達の関連性に目を向ける。	○本州四国連絡橋が建設されたことで地域はどのように変容したかを調べる。
11月	第3節 近畿地方[14] 1 近畿地方の自然環境 2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 3 臨海部の埋め立てと環境に配慮した工業 4 古都奈良・京都と歴史的景観の保全 5 環境に配慮した林業・漁業と保全活動	<第3節> 日本の古都としての役割、東京大都市圏に次ぐ大都市圏を形成している点を理解する。 古くから工業が発展してきた地域とその課題を理解する。	○近畿地方と関東地方の発展や文化の違いの要因を探ることで日本を多面的に見る目を養う。 ○近畿地方における琵琶湖の役割を知り、環境問題への取り組みを理解する。
12月	第4節 中部地方[15] 1 中部地方の自然環境 2 輸送機械工業がさかんな東海 3 交通網が発達した東海の農業 4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり 5 雪とのかかわりが深い北陸の産業	<第4節> 自動車を中心とした工業の発展が経済成長に関わることを理解する。 山梨県の地理はオリエンテーション旅行で見学した富士五湖と関連づける。	○発展した背景を知ることによって、産業の立地を理解していく。

	第6節 東北地方[17]	< 6 節 > 中部地方の「北陸」との共通点をもとに厳しい自然の中での暮らしを理解する。	○地域の祭りと農業が結びついている意味を知る。
	第7節 北海道地方[18]	< 7 節 > 江戸時代後期からの農業の発展をもたらした背景を知る。	○農業の発展へ人々が献身的に取り組んだのはどうしてか。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞			授業ノート提出課題
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞			定期考査結果課題
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞			定期考査結果課題

【観点別評価】

1, ノート提出

- A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。
- B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。
- C：補充できていない空欄が存在する。
- D：未提出

2, 発表課題（予定 授業の進度によって実施しない場合もある）

地域の特徴（観光案内）について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。 C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。
日本国内に関連する新聞記事ワーク	A：探究的な内容の新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明を表現したり、今後の学習を見据えた発展的な意見を述べている。 B：現代の諸課題に関連した新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明をしようとする姿勢が読み取ることができ、指示した課題に取り組んでいる。 C：他者にはわかりにくい説明であったり、指示した課題に取り組めていないなどといった、主体性を感じられない内容である。 D：未提出

中学2年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 月 5 月 6 月	第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州[4] 1 アジア州の自然環境 2 アジア州の農業・文化と経済発展 3 経済成長を急速に遂げた中国 4 最も近い隣国、韓国 5 経済発展を目指す東南アジア 6 産業発展と人口増加が急速に進む南アジア 7 資源が豊富な中央アジア・西アジア 第3節 アフリカ州[6] 1 アフリカ州の自然環境 2 アフリカの歴史と文化 3 特定の輸出品に頼るアフリカの経済 4 アフリカが抱える課題とその取り組み	＜第1節＞ アジア州の自然環境を白地図プリントの作業を通じて理解させ、続いてアジア州の各地域を経済格差をテーマに理解させる。 ＜第3節＞ アフリカ州の自然環境を白地図プリントの作業を通じて理解させ、続いて経済の実態や今後の課題や取り組みを歴史を通して理解させる。 。	『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院） ＜第1節＞ アジア州では季節風の影響を強く受ける東アジア・東南アジア・南アジアの農業・生活、影響の少ない西アジア・中央アジアの農業・生活を理解する。時事問題と絡めながら、工業化の発展や世界の中での枠割を知る。 ＜第3節＞ なぜ貧困にあえぐ国々が多いのかをテーマに歴史や現状に目を向けさせ理解することを中心とする。
9 月 10 月 11 月	第2節 ヨーロッパ州[5] 1 ヨーロッパの自然環境 2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性 3 EUの成り立ちとその影響 4 ヨーロッパの農業とEUの影響 5 ヨーロッパの工業とEUの影響 6 EUが抱える課題 第4節 北アメリカ州[7] 1 北アメリカ州の自然環境 2 移民の歴史と多様な民族構成 3 大規模な農業と多様な民族構成 4 世界をリードする工業	＜第2節＞ ヨーロッパの国々の魅力を調べていくことで、各々の個性を知る。 世界情勢が複雑化する中で、EUが今後向かう姿を予想してみる。 ＜第4節＞ 世界で存在感のある北アメリカとヨーロッパの関係を捉える。移民の歴史、農業については、北アメリカ州の中で南アメリカ州についても扱う。	＜第2節＞世界情勢が複雑化する中でのEUの今後を創造してみる。 ヨーロッパの国々が個性をもちながらも、一つのまとまりとしてとらえている感覚を得る。国調べを行いプレゼンテーションを行う。 ＜第4節＞ 日本と関係の深い国々や地域について調べ、プレゼンテーションを行う。

1 月	第5節 南アメリカ州[8] 1 南アメリカ州の自然環境 4 ブラジルにみる開発と環境保全	＜第5節＞ 移民の歴史、農業については、北アメリカ州の中で南アメリカ州についても扱う。 熱帯雨林伐採に関する環境問題に取り組む。	＜第5節＞ 日本と関係の深い国々や地域について調べ、プレゼンテーションを行う。
2 月	第6節 オセアニア州[9] 1 オセアニア州の自然環境 2 移民の歴史と多文化社会への歩み 3 他地域と結び付いて発展する産業	＜第6節＞ グローバルキャリアフィールドワークを実施するオーストラリアと周辺の地域を事前に学び、異文化理解の成果に繋げる	＜第6節＞ 南半球に位置するオーストラリアを中心とした国々の自然環境を理解する。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞			ノート提出 発表課題
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞			定期試験 発表課題
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞			定期試験 発表課題

【観点別評価】

1, ノート提出

- A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。
- B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。
- C：補充できていない空欄が存在する。
- D：未提出

2, 発表課題

課題内容	評価指標
------	------

アジア・オセアニア地域の課題について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。 C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。
アジア・オセアニア地域に関連する新聞記事ワーク	A：探究的な内容の新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明を表現したり、今後の学習を見据えた発展的な意見を述べている。 B：現代の諸課題に関連した新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明をしようとする姿勢が読み取ることができ、指示した課題に取り組んでいる。 C：他者にはわかりにくい説明であったり、指示した課題に取り組めていないなどといった、主体性を感じられない内容である。 D：未提出
ヨーロッパ地域の課題について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。 C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。